

主催 西奈図書館友の会“けやき” 後援 静岡市教育委員会 と き 2012年1月21日(土)

駿府城天守再建は可能である

講師 黒澤 脩 (元静岡市駿府城天守閣等関連史料主席調査員)

① 調査で明らかになったこと → 駿府城天守は「謎」ではない

◇ 指図の存在だけが、天守再建の決定的史料ではない (この証明)

◇ 駿府城天守の事例は、指図がなくても復元可能である (この証明)

注記 一般的に「天守閣」は、学問的には「天守」(安土は天主と記す)に統一して呼ばれることが多いため天守とした

② 駿府城天守再建が可能となる理由

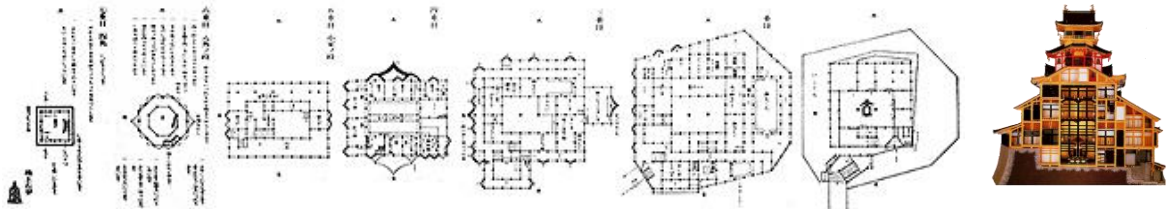
駿府城天守は、指図が無くとも幕府大工頭(中井大和守正清)の建築様式が、他の天守指図(二条城・江戸城・名古屋城)から駿府城天守の「姿・形」を読み取ることができる。更に今回明らかになった日光と和歌山東照宮絵巻に描かれた駿府城天守を、これら指図と相互に応用することによって、より正確な駿府城天守の姿が可能となる事が判明した。

私の調査で明らかになったことは、宮内庁書陵部所蔵の『駿府政事録』(抜粋)の文言である「御天守模様之事」によって、より正確に駿府城天守の具体的様子を知ることができ、双方の成果によって駿府城天守の姿を指図以上により正確に知ることができた。

③ 中井正清の天守指図には、「二条城天守・江戸城天守・名古屋城天守指図」が現存する。これら天守の指図は、設計思想は同じであるため、これらの指図を参考に駿府城天守に応用することが可能である。

③ 指図・地割図とは何か? 建設・建設の段階で、実際に建築するための指示を現した図面のこと

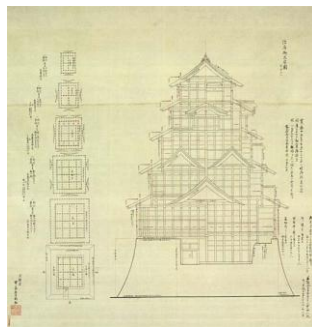
例1:安土城天主の指図



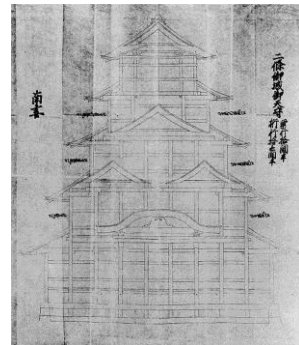
④ これは 静嘉堂文庫蔵『天主指図』(安土城天主指図)で七重の平面指図で示されている。しかし天主外観は、想像でしかありえなく、駿府城天守は日光東照宮等の絵図その他(宮内庁書陵部等の史料)からより正確な姿が期待できる。



江戸城天守指図



江戸城(江府)御天守図百分之一



二条城天守建地割図

例2: 重文・中井家所蔵の江戸城天守指図より

注記： 駿府城天守は、指図または地割図が存在しない。このため再建不可能と考えられていた。しかし私の調査によって、駿府城天守にはどこよりも信ぴょう性の高い絵図(幕府御用絵師の描いた駿府城天守)の存在により、この絵と古文書の情報から天守再現への大きな信頼できるヒントを読みとることができる。この絵を基に、中井正清の造営した他の天守指図を応用し、更に中井大和の建築思想を当てはめることにより図面作成が可能となる。その絵とは、二人の幕府御用絵師が約 370 年前に描いた駿府城天守で、「日光東照宮」と「和歌山東照宮」に残された絵巻に現存している。

④ 新しく発見された二つの駿府城天守絵

狩野探幽作「日光東照宮絵巻」(重文)には、駿府城天守の姿が見事に描かれている。全国には 500 社を超える東照宮が存在し、これらの東照宮では古くから家康公を東照大権現として祀っていた。これら全ての東照宮の悉皆調査の結果から、日光東照宮の他に紀州和歌山東照宮にも住吉如慶作「東照大権現縁起絵巻」(和歌山県文化財)が現存することが判明した。これら二つの絵巻には、いずれも駿府城天守が見事に描かれている。

⑤ 二社の東照宮が所有する絵巻に描かれ駿府城天守絵の検討

特徴

- ① 二社ともに駿府城天守が描かれ、天守が共通した絵柄となっている
- ② 「日光東照宮と紀州和歌山東照宮」を更に比較すると、和歌山東照宮絵巻の駿府城は、日光東照宮絵巻には描かれていない駿府城天守の下部の部分も描かれている。
- ③ 二つの絵巻を描いた人物は、共に徳川幕府の御用絵師として駿府城天守を描いている。
- ④ 二つの絵巻には、駿府城天守の絵が描かれている。二人の御用絵師が、大御所徳川家康公の城として重要な駿府城天守の姿を幕府御用絵師の立場から、後世へのメッセージとして正しく描き伝えたものと考えられる。如慶は、探幽の絵を参考に描いた説もある。

⑥ 「古文書」に残された駿府城天守の記述から

「古文書(古記録類)」に記録された駿府城天守の様子は、「御天守模様之事」として次の古文書並びに古記録に具体的に記されている。

- ① 『慶長見聞書漏分』(全) 国立公文書館蔵
- ② 『慶長小説』(全) 金沢市立図書館加越能文庫蔵
- ③ 『駿府政事録』(抜粋) 宮内庁書陵部蔵 → 天守上棟時の記録は下記文章参照
- ④ 『創業記考異』 東京大学附属図書館蔵
- ⑤ 『慶長見聞録案紙』 国立公文書館旧内閣文庫蔵
- ⑥ 『当代記』

以上の史料には、駿府城天守の外観について「この天守模様のこと・天守模様・天守模様のこと・此天守模様之事・御天守之模様」として駿府城天守の特徴を記している。中でも宮内庁書陵部に残る『駿府政事録』(抜粋)の前書には、駿府城天守が上棟した時、大御所徳川家康と将軍家の重要な人物が天守に登り、上棟の儀式を下記の通り執行した事が記されている。Ⓜ 『駿府政事録』(『慶長政事録』とも)は、家康の学導師範であった林羅山の記録という。

- ⑦ 『駿府政事録 抜粋』 宮内庁書陵部蔵より → 天守最上階で行われた上棟式

「慶長十三年八月二十日午の刻(現在の正午頃)、駿府七重の殿守(天守の意味)上棟これあり。大工中井大和守榎を打ち、これにより賞として従五位下大和守に叙任す。薄銭千貫文、銀八袋(一袋に十枚入り)、刀一腰を給う。大工各々に賜物これあり。棟に五色幣三本、いづれも薄板染物なり。弓に張り矢を立てて、大御所ならびに將軍家天守に登り上棟の儀式を上覧したまう。そもそも・・・(以下、駿府城天守の様子が記されている)『駿府政事録』(抜章)より。

以上の記述から、上棟時の駿府城天守の様子が具体的に目に浮かぶように記されている。更にこれらの史料には、指図には掲載されていない「**天守の様**」(具体的な飾付)が記され貴重な情報源となっている。この記述から「駿府城天守の形」は、想像以上に美しい姿を現わしていたことが理解でき、指図には掲載されていないそれ以上に貴重な駿府城天守の外観を具体的な「姿・形」として後世に伝えていることが重要である。

従って駿府城天守は、従来から「**指図がないから再建は不可能**」と云われていたが、これらの史料から駿府城天守は指図以上に多くの裏付けとなる根拠(情報)が明らかになった。

結論

私は五年間、静岡市駿府城天守閣等関連史料主席調査員として全国並びに海外の 500 カ所に及ぶ調査を実施したが、駿府城天守の指図は発見できなかった。恐らくこれからも発見されないであろう。駿府城は「天下の名城」にして、しかも大御所徳川家康の居城であるが故に存在していれば多くの研究者の間で既に利用され発表され、その実態が明らかになっていた筈である。

ところが駿府城天守の研究は、「江戸・明治・大正・昭和・平成」の各時代を通じ、今日まで多くの研究者が探し求めていた城の中の城である。もし存在していれば、既に江戸時代の「古文書・古記録」に加え、現代の多くの学者の研究論文等に登場し、その研究成果が発表されていて当然である。それだけ駿府城は重要な城と天守であるが、今日に至っても過去の古文書・古記録に加え、現代の研究論文等にも登場していない。

この事実から、駿府城の指図は当初から残さなかった可能性がある。そうした中、唯一の記録として残された物が宮内庁書陵部その他に伝わる上記の五点の古記録と、さらに日光と和歌山の二つの東照宮に残された「**東照宮絵巻**」ということになる。

そこで、私の今日までの十年間に及ぶ調査で到達した駿府城天守の現状を、最新情報として以下再び整理して申し述べたい。

駿府城天守の再建は可能である

根拠として

- ① 日光と和歌山の東照宮絵巻に描かれた天守の形(スタイル)が共通している
- ② この絵巻を描いた人物が、徳川幕府の御用絵師として重要な人物であること

- ③ 徳川家康公をお祀りする「東照宮」に奉納されたことから、二人の幕府御用絵師は絵師としての良心に従って、正しく「**大御所徳川家康公の城**」として駿府城天守を活写したと考えられる。(これは二人の幕府御用絵師の絵柄が共通することからも、極めてその意味するところは大きい。一説によれば、**住吉如慶**は探幽の絵を参考にしていたという)(如慶の絵が、探幽と微妙に異なるのは、探幽は多くのスケッチを残した中の一部を如慶が利用したと考えられる)
- ④ 二つの絵巻には、江戸時代を代表する重要な人物が直接関わっており、その名を絵巻の中にキチンと書き残し後世に伝えていること
- ⑤ 狩野探幽は、この絵巻の他にも駿府城御殿の障壁画も描いた幕府御用絵師であり、特別駿府城との関わりは甚大であり、加えて浅間神社の「三十六歌仙」の絵画も天海僧上の指示に従って探幽が描き残している。

① 「日光東照社縁起」(絵巻) 日光東照宮蔵 国の重要文化財

重要人物

- ◇ 幕府御用絵師 **狩野探幽画**
- ◇ 金欄の表紙(題箋)には「東照宮縁起」と書かれている
- ◇ 内題には墨書で「東照大権現縁起」とあり名称が異なる
- ◇ 筆頭の詞書は**後水尾上皇**である
- ◇ 跋文(後書)は**天海大僧正**である

成立

狩野探幽が38歳の時、つまり寛永17年(1640年)に描かれたこの絵巻は、天下を治める正当性を叡山の秘伝にもとめ、それを支える家康公の神話が確立されていく様子を絵巻に描いて日本人の「神観念」を明らかにした大変貴重な巻物として成立している。

② 「東照大権現縁起」(絵巻) 紀州東照宮蔵 和歌山県文化財

- ◇ 幕府御用絵師 **住吉如慶(広道)画**
- ◇ 承応3年(1654)如慶は、探幽の指導を得て内裏障壁画制作に参加している
- ◇ 詞書 **青蓮院尊純法親王**

青蓮院尊純法親王は、京都青蓮院四十八世の門跡で、後陽成天皇の猶子。天台宗の座主として和歌に秀で、また日本を代表する抜群の能書家として知られている。青蓮院尊純は、江戸幕府が全国一律に定めた公用の文字の書き方「御家流」の元祖としても著名な人物。

成立

正保3年(1646)、幕府御用絵師の住吉如慶(広道)が描いている。住吉如慶は住吉派の祖で、名は初め広道、のちの広通。土佐光則に師事し、土佐光陳とも称した。この絵巻は卷子本(巻物)5巻から成り36.0×838.7の紙本着色である。

③ 二つの絵巻から分かる新事実とは何か！

- ① 特徴が「天守丸構造」として一致している
- ② 唐破風・千鳥破風の形とその位地も完全に一致している

狩野探幽は駿府城天守を焼失前に訪れており、家康に拝謁して天守の雄姿を見聞している。この時に絵師として探幽は、天守をスケッチしていた可能性があり、探幽と如慶はお互いに幕府御用絵師としての交流もあり幕府御用達の共通の仕事も手掛けていた。

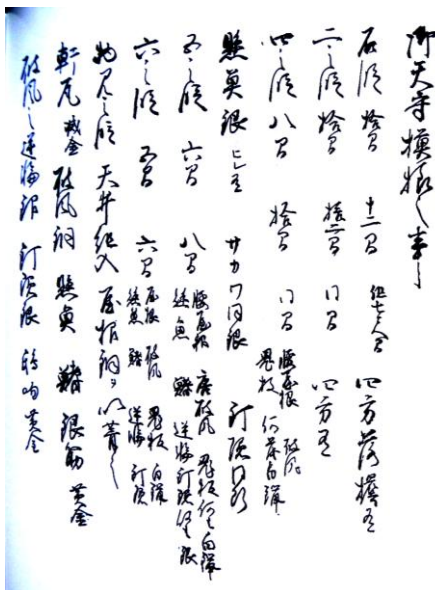
④ 両者の絵から分かる共通の新事実とは！

- ★ 特徴として「天守丸構造」が一致
- ★ 唐破風・千鳥破風の形とその位地も一致
- ★ 狩野探幽は、寛永12年(1635)の天守焼失前の城を見聞している
- ★ 大御所徳川家康の天守の雄姿を見事にこの絵巻に描いている
- ★ 二人は、お互いに徳川幕府の御用絵師として交流とプライドがあった
- ★ 画かれた天守の外観は、時期が異なるが、二人が眺めた駿府城天守の位置(場所)が同じ方向から描いている
(駿府城天守を眺める最高のビューポイントであったと思われる)

天守再建のため、今後は何をすべきか？

- ① 天守台跡地の発掘と新たな石垣の構築 →天守台は天守丸構造
- ② 中井正清の建築した名古屋城・二条城・江戸城天守の指図を応用
- ③ 中井正清の設計上の癖を、探幽の描いた絵柄に当てはめる。
- ④ これは古建築家に図面作成を依頼すること

御天守模様之事『慶長見聞書漏分』(全) 国立公文書館蔵



御天守模様之事 (翻刻)

石段 - 10間×12間、但七尺間 四方落縁有

二之段 10間×12間、同間 四方有

三之段 (二階と同じため省略している)

四之段 8間×10間、腰屋根・破風・鬼瓦

いずれも白鐵、懸魚銀 ヒレ有・鯨・サカワ同銀 釘隠同断(銀)

五之段 6間×8間、腰屋根・唐破風・鬼板 逆輪釘隠いづれも銀

六之段 5間×6間、屋根・破風・鬼板は白鐵、懸魚・鯨・逆輪・釘隠

物見之段、天井組入・屋根銅をもってこれを葺く 軒瓦は鍍金 破風は銅、懸魚・鯨・銀筋黄金 破風の逆輪は銀・釘隠は銀、鴟吻黄金

(これは金の鯨鯨のこと)



日光東照宮絵巻の「駿府城天守」



和歌山東照宮絵巻の「駿府城天守」



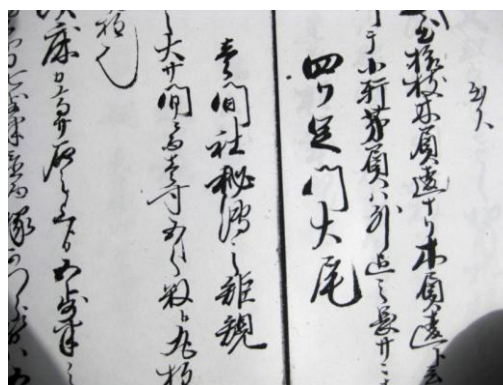
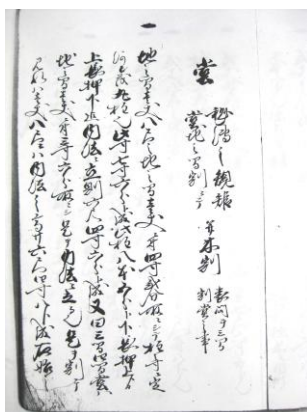
駿府城天守を建築した中井正清 (中井正知氏蔵)



国宝 狩野探幽画像 (京都国立博物館蔵)

注記①: 駿府城御殿の障壁画を描いたのも狩野探幽であり、中井大和守正清は天守だけでなく駿府城全体の建築工事にも関わり大工棟梁たちに采配を振った幕府の大工頭。一方、駿府城の庭(紅葉山庭園)の築庭整備は小堀遠州が担当した。この庭は、国宝二条城御殿の庭と極めて類似した設計として記録が残されている。

注記②: 駿府城は、天守以外全ての指図が現存している。この意味するところは、寛永12年(1635)の駿府城の火災によって、天守以外の全ての建物が再建された。この駿府城再建に関わった地元の大工(例えば花村・古池・塩津・山崎)等の関係者が、資料(指図)を今日に伝えていたため再建後の駿府城の全容を知ることができた。従って駿府城は、寛永以降の建造物類も直ちに復元可能である。



『鎌倉様御秘伝書』

(花村猪太郎の写)

木割秘伝規矩

中井大和守の秘伝の規矩(考
えや行動の規準)の業もこの
秘伝書からも応用することが
できる。

四百年前に、スペイン海軍総督のみた駿府城



四百年前、駿府城天守を見聞していた外国人の記録

駿府城内での徳川家康とスペイン海軍司令官との歴史的出会いの記録

セバスチャン・ビスカイノとは、スペイン国王の時計を持参して家康に献上するため、駿府城で大御所徳川家康に謁見したスペイン海軍司令官。その時の模様を記したビスカイノの記録が次の様に克明に駿府城での事柄を記録していた。

セバスチャン・ビスカイノ (1548-1615)

「ビスカイノ/金銀島探検報告記」1611年、ビスカイノ/家康に謁見の記録

○ 駿府城の構造について

「我々は、昼の十二時に城並びに王宮(駿府城御殿)に着いた。城(駿府城)は堅固にして、巧妙なるとは、世界に存する最良なる城の一つである。ここには、二つ(実際の堀は三つでビスカイノの勘違い)の甚だ大なる堀がある。水底より十メートル以上あり、幅は五十歩あった。婦女子等の居室は、純金をもって造られている。その両端には、金で造られた甚だ大きなグリフォ(獅子の怪獣)が二頭置かれていた」。注記:グリフォとは、ギリシャ神話の「Gryps」の意味で、日本で見掛ける狛犬である。家康が狛犬を飾っていた事は有名であった。

○ スペイン国王の旗を携えて

「第一の門に入る前には、警護の武士が武器を携え、これを指揮する隊長等と共に出迎えられた。武器・旗及び太鼓はこの場所に留められてから、我々は王の旗(スペイン国王旗)のみ携えて最後の門(本丸)まで登って行った。この城の広大なること、並びに城中に在る兵士についてはここには述べず。但し、誇張することなくメキシコ市の住民全部の二倍は城中に住んでいるだろう」。以下省略 『ビスカイノ/金銀島探検報告記』参照

この時計には、大航海時代の駿府が語られている

世界文化遺産に匹敵するこの時計は、スペイン国王フェリーペ三世が大御所に献上した洋時計で、四百年前スペイン船が日本の御宿で遭難した事件にまで話は遡る。家康は生き残った乗組員を救助し、船を失った彼らのためにウィリアム・アダムズ(三浦按針)の造船した船(120トン)でメキシコ西海岸アカプルコまで送迎した。

このことに感謝したスペイン国王は、駿府城の大御所家康に使節を派遣した。この時計は、大西洋・メキシコ大陸横断、そして太平洋を越えてマドリッドから駿府まで届けられた「日本とスペイン友好の歴史を語る重要な文化遺産」である。駿府城内に無事に届けられたこの時計は、狩野探幽や大工頭中井大和守正清らも愛で、その音色を聴くため耳を傾けたことでしょう。本日は、特別にこの時計の音色を400年の時空を超えて会場の皆様に聴いて戴きます。



平城遷都（710）により建造された平城宮の正門

奈良の大極殿はどうして再建されたか



大極殿の礎石発掘現場



この礎石の上に再現された大極殿

奈良の朱雀門は、平城遷都（710）建立による平城宮の正門である。復元工事は、1991年から始まり1997年10月17日に完成した。ところが復元の根拠は、発掘された門の礎石（写真上）だけであり、国立奈良文化財研究所は、奈良時代に創建された唐招提寺その他の奈良県内の古い門を参考にして写真の様な門を再現させたものである。現在は世界遺産の一部にこの門も含まれている。

駿府城天守の史料や情報は、奈良の朱雀門が再建された資料・情報より質・量ともに豊富で正確な根拠となることは疑う余地もない。したがって、「指図が無いから復元は不可能」といった説明は現在では通用しない。古の天守の姿を、一日も早く駿府城に再現し、その雄姿を国民は元より全世界に喧伝し、静岡市の都市としての「格」を高める意義がある。

講師紹介

- ① 黒澤 脩（くろさわおさむ）昭和21年(1946)中国生。
- ② 大学時代の昭和43年(1968)、アメリカ・メキシコ・カナダで1年間放浪生活を体験し、故郷を大切にする現地の実態に触れ、静岡でもその必要性を実感し帰国。
- ③ 静岡市役所在任中、静岡市制百周年「すんぷ博」、「葵博」、「大御所四百年祭」を特命で担当、静岡市の駿府城天守閣等関連史料主席調査員として5年間、天守閣史料調査に従事。この間に国内外の500ヶ所の調査を実施し、成果を『駿府城関連資料調査報告書』として市教育委から刊行。静岡市教育委員会事務局参与を最後に退職
- ④ 市役所在職中に静岡県史編纂事業を8年間担当
- ⑤ 現在静岡市教育委員会が進める、静岡市「スペシャリスト」派遣講師として小中学校に出前講座を静岡市教育委員会を通じて実施。「静岡と日本文化」の大切さを子供たちに伝えている。
- ⑥ 元静岡県立大学・元東海大学短期大学部の非常勤講師
- ⑦ 現在島田市川根町家山の「而今庵」にて執筆と講演の生活をしている

たのしみは 駿府の夢の城探し 古しへ今を語りあふるとき

文責 黒澤 脩(元静岡市駿府城天守閣等関連史料主席調査員)